

● 1月選評

小島なお

・西山宗一（神奈川県）

ルームメイツの花が咲く

テーブルマナーに厳しくて

トイレの長い君の花

友達とも違う、家族とも違う、ルームメイツという花。マナーについて注意するとき、トイレにこもるとき、世にもうつくしい花びらが散りかかる。

・あお（奈良県）

いつだって

民意より

遠いところに春

人民の意志は漠然として、心許ない。それは常に為政者の側にある言葉であるから。春はだれにも利用されない。私たちは細目をあけて待つことしかできない。

・登りびと（福岡県）

背もたれを

倒していいですか五月

ひとこと後ろの席の人にことわる。すると、その人もその後ろの席の人にことわる。そのまた後ろの人に……。すべての背もたれが倒れたら五月。

・ 柰いう子（佐賀県）

歩道橋ゆらぐ遠花火と違う

花火のようで花火でないひかり。こちらからあちらへ脚をかける歩道橋はときどき時空を超える装置となる。いまを危うく揺るがす地上数メートルの視界。

・ 伽（東京都）

屋上も快速の止まらない駅も

返して僕のかわいいあいつ

大切にしていたはずなのに、気づくと失っていて、失ったことすら忘れてしまっているものたち。かわいい屋上や各駅停車の駅を奪っていったのはだれか。

・ 山本先生（東京都）

迎春の

ちやちなフォークで食うパスタ

たとえばコンビニのパスタに付いてくるプラスチックのフォーク。新年に不釣り合いなそのたわいない安っぽさが私を安心させる。

・ 田崎森太（東京都）

氷上に石、紙、鋏、義仲忌

平氏を破り征夷大將軍にまでのぼりつめたが、源範頼・義経率いる鎌倉軍に討たれた義仲。じゃんけんの石、紙、鋏。この世のすべては氷の上の偶然の運。

・鈴木 勝也（京都府）

雪の乱むかしむかしと彷徨えば

戦争、一揆、デモ、暴動、テロ。人類史に数限りなく起こった、起こるであろう

乱。「むかしむかし、」と物語りながら有史以前まで遡れば雪の乱に行き着く。

・中尾颯希（神奈川県）

切りたての髪は

ボーダーな気持ち

軽快で、気楽で、すうすうと空気が行き来するような、しましまの気持ち。ボー

ダーの服を着ている人のように、どこにでもいるいい人の気分。

・五味 はこ（神奈川県）

砂浜の

読んではならない部分を歩く

読んでもいい部分と読んではならない部分。私たちはたぶんその境界を直感的

に知っている。禁忌を犯した足跡をひとつ残らず波は攫ってゆく。